

公1 農林水産業担い手青年の育成に関する事業（令和元年度）

①農業青年プロジェクト活動支援事業（単協） 助成実績

【25団体 1,050,200円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	西海市青年農業者の会	芋ほり体験による食農教育	食育の一貫として、地元保育園児を対象に芋掘り体験を行い、農業理解や地域の食べ物についての理解を深めてもらい、「食」と「農」の大切さを伝えた。今後は、掘るだけでなく、苗を植えるところから実施できるよう検討したい。
2	いさはや4Hクラブ諫早支部	食育活動を通じた担い手確保への取組	小学生を対象に、収穫体験および調理体験と「食」「農業」に対するアンケート調査を行ったところ、「将来農業をしてみたいくなった」という意見を約35%得ることができた。（活動前のアンケートでは、将来農業をしたいと答えた子供は0名だった）また、食育活動を通して、諫早市産の農産物のPRにつながり、子供たちとの交流を通して農業について改めて考える良い機会となった。
3	いさはや4Hクラブ飯盛支部	馬鈴薯栽培におけるマルチの比較試験	栽培管理において、スリット入りマルチと慣行のマルチの生育調査および収量調査の比較試験を行った。結果、収量は試験区が慣行区と比べて5%少なくなった。マルチの価格は、試験区の穴あきマルチが慣行のマルチの5倍以上であり、収益についても18万円の赤字となったため、今後は価格が抑えられ、収量への影響が少ないマルチがないか検討していく。
4	大村市青年農業者会	おおむらゆてピープロジェクト (落花生プロジェクト)	栽植距離の変更・防除時期の見直し・開花期の管理徹底に取組んだ結果、白絹病の発生を抑えることができ、収量アップにつながった。また、落花生栽培で最も時間を要する収穫・選別作業で、福祉施設に落花生のもぎ取り作業の委託を行った結果、時間を大幅に短縮することができ、収益性についても採算が合うことが分かったため、今後、農福連携の取組みについても拡大していきたい。
5	東彼杵町青年農業者連絡協議会	青みかん収穫作業支援 (みかん茶振興プロジェクト)	お茶のオフシーズンに高機能醗酵茶の原料用青みかんの収穫支援を行い、経営の多角化・複合化などプラス要素となる可能性を探った。結果、青みかん収穫作業は2日間で収量458kg・約25万円の売上げを得られる作業となり、経営規模を確保できれば、お茶との複合経営化も期待のできる成果があがった。
6	長崎県三会4Hクラブ	産地の長期的発展を見据えた婚活および地元農産物マーケティングプロジェクト	市役所やRing（婚活サポート事業を運営）との協力体制を活用し、婚活を行う中で農業の魅力や地元農産物のPRを行った。結果、8名中2名が交際へと発展した。また、当クラブの取組みに佐賀県の武雄4Hクラブが関心を示したことから、クラブ間の交流を目的に、情報交換会を行った。
7	島原市安中4Hクラブ	土壌改良を目的としたダイコン栽培	収量の確保を図りつつ、土壌消毒や農薬散布を減らすことで、省力化・コスト減が可能か調査したところ、通常施用区・無処理区とも収穫の遅れもなく十分な収量を得ることができたが、無処理区では秀品率が低下した。以上のことから、現場の土壌消毒が隔年でよい可能性があるが、殺虫剤については例年の対策が必要と思われる。
8	有明町青年農業者連絡協議会	すいか耐暑性品種の検討 農産物直売による収益向上プロジェクト	耐暑性品種を中心に品種比較試験を行い、新品種導入（4種）による安定した生産およびスイカ産地の維持拡大を目指した。結果、昨年度より7～8月の気温が低かったこともあり、割れ数が少なく判然としなかった。数量・カット後の断面および、食感や甘味など総合的に評価して「夏爽赤」が優れていた。今後は販売方法をセット販売にするなど工夫をすることで、消費者のニーズに対応しながら収益性を高めることが可能であると実証できた。
9	吾妻町青年農業者連絡協議会	～プロッコリーはじめました Part 4～ フルボ酸資材の有効性の確認	フルボ酸肥料、堆肥+肥料 それぞれ半量区・慣行区を設け、生育と収量性を調査し比較試験を行ったところ、全ての処理区で葉数・葉長・葉幅に大きな差は見られなかったが、フルボ酸+肥料の半量区では花蕾の生育が早い傾向が見られた。また、フルボ酸投入区においては、収穫期が前進し、化学肥料を低減しても慣行区と遜色ない収穫物がみられた。今後はフルボ酸を圃場に継続的に投入し、プロッコリーの生育に及ぼす影響を調査していく。
10	千々石町農業研究会	2020 捕獲隊指導 イノシシ対策実施隊	町内で農業をしやすい環境づくりをするため、各種講習会への参加および猟友会への入会・捕獲隊の活動を行った。R1年度は6名の会員が狩猟免許を取得、メンバー内の3名が猟友会へ入会、捕獲活動では年間151頭のイノシシを捕獲した。（捕獲リダの前年比212%）
11	小浜町農村青年振興会	新規作物・環境保全型農業に取組もう プロッコリー編	牛糞を有効活用し、労力があまりかからない作物に重点をおき、新たな品目プロッコリーの導入に取組んだ。牛糞堆肥を使用し土壌改良に取組み、コート種子を使用するなど工夫をしたところ、良い物ができ、堆肥を利用することや収穫までの労力がかからない点が年間を通してわかった。
12	愛の町農友会	ONE TEAM ～みんなで環境にやさしい農業を～ 緑肥作物を利用して収量アップ	環境に負荷を与えない栽培方法で今後の馬鈴薯の持続可能な農業を目指すため、緑肥・肥料別で検討した。緑肥別の収量は、セソバニア区は他の区と比較してわずかに収量が高かった。また、排水が悪く腐敗塊茎が多い部分にセソバニアを作付したところ、障害塊茎はなく、土壌の改善効果もあると考えられた。肥料別での収量は、緩効性肥料および有機質配合肥料が慣行に比べ高い傾向だった。
13	国見町青年農業者連絡協議会	ねぎ残さを活用した堆肥づくり	作成した堆肥は、複数の成分項目において一般的な牛糞堆肥の数値を上回り、うまく使えば減肥に繋がるのではないと思われる。大量のねぎ残さを堆肥化できる場所の確保・ねぎ農家と畜産農家の結びつけ等の課題が出たが、循環型農業の実現に向け今後も取組みを進めていきたい。
14	瑞穂町青年農業者連絡協議会	プロジェクトM ep.2 自作の肥料で土、野菜づくりへの挑戦	瑞穂町でできた材料で堆肥を作り、牛糞堆肥・鶏糞堆肥・混合堆肥の生育状況を比較しながら野菜づくりを行った。結果、どの堆肥も遜色なく立派な野菜ができ、地域のイベントで販売・提供を行い、地域振興を図ることができた。
15	南串山町4Hクラブ	「ながさき黄金」普及への道のり ～Part3～	ながさき黄金の収量を従来の品種に近づけることを目標に、秋作における比較試験を実施した。結果、新肥料「スミカエース2号」を使用し「がまだすEX」を追肥した試験区が収量も多く、秀品率も高く、1個あたりの重量も増加する傾向にあった。経営収支の面で試算した場合も、他の試験区と比較して所得が一番高くなった。今後はながさき黄金の更なる収量と知名度のアップを目指して活動継続していきたい。
16	深江町4Hクラブ	食育プロジェクト 6 地域貢献 ～ふるさとに恩返し～	地元の小学校（深江小学校）に食育活動を通して「食への関心」を深めてもらうと同時に、地域振興に役立つ事を行った。「とうもろこし」「サツマイモ」の定植・収穫を体験してもらい、食への関心は高まったと思われる。収量が少なく、ジャム作成用のサツマイモがなくなってしまったため、今後はサツマイモの施肥や栽培管理を見直したい。

17	布津町4Hクラブ	鶏糞肥料を使ったブロッコリーの栽培調査	鶏糞を堆肥として使用し、慣行区・肥料+鶏糞・鶏糞のみ の3区に分けて試験区を設け生育調査を行った。データを比較すると、慣行区に比べ、他の2区では若干、徒長している傾向にあり、葉の枚数も少ないように見られた。収穫においては慣行区の方が早い出荷が目立った。鶏糞を堆肥にする時間を作れなかったため、市販のペレット鶏糞を使用。全体的にブロッコリーのホウ素欠乏が見られたため、今後の対策が必要と考える。
----	----------	---------------------	--

18	有家町青年農業者連絡協議会	ブロッコリーの2花蕾どり試験の調査	1花蕾の収穫は12月上旬より開始したが、収穫が間に合わず規格外が多発してしまった。2花蕾は収穫時期も考え、定植時期を早める必要がある。2花蕾を探すのが難しかったため、畝間の感覚や収穫後の葉の剪定による収穫作業の簡素化を検討し、2花蕾の生育状況・土壌分析を行い、追肥を検討していく。
19	北有馬・西有家農青会	かぼちゃで儲けよう～Re:ゼロから始める4H活動～祭りの販売のカボチャ作り	かぼちゃの栽培試験・品種特性・新たなレシピを提案することを目的として活動。かぼちゃは台風被害の発生・天候不順による植え付け遅れにより収量が低下し、収量比較は困難となった。遠観での結果であるが、商品化率が高い品種は「こぶき」であった。かぼちゃの品種比較試験については、今後も長崎県立大学と連携し、保存期間による栄養成分の変化や新たなレシピ開発などにより消費拡大のPRを行っていきたい。
20	口之津・南有馬農青会	Tomato Project ～栽培編～	夜間の暖房機稼動により、湿度を一時的に下げることができたことから、「トマト葉かび病」の発生が抑制される傾向にあることが考えられた。いちご灰色かび病での対策が、トマト葉かび病にも応用できると考えられた。
21	加津佐町4Hクラブ	ネット販売を活用した農作物高付加価値化に向けた取り組み（収益向上に向けた挑戦 Part 1）	高収益・販路拡大を目指し、ネット販売に新たに挑戦した。手数料の関係や煩雑さにより1社の販売サイトを活用。写真やレイアウトを活用しないと宣伝力が弱く、単価を上げすぎると購入しないうえ、送料や手数料も考慮した単価設定の難しさを実感した。ネット販売は、理解不足な点もあるため、今後は専門家およびすでに取組んでいる生産者を招いた研修会を実施する。また販売を継続し、販売数の向上を図る。
22	佐世保市青年農業者連絡協議会	農業体験・収穫を通じた恋愛事業	中長期的な地域農業の担い手確保を目的として、婚活事業に取組んだ。身だしなみや話し方のセミナー、交流イベントの参加・企画を婚活支援事業者と連携して実施。会員の意識向上を図ることができたが、4HクラブそのもののPR不足が明らかになったため、今後は普段の活動に加え、SNS等も活用しながら4Hクラブの活動をPRしていく。
23	平戸市青年農業者連絡協議会	未来への種まき 2019 食育プロジェクト	園児とジャイアントかぼちゃやピーマンの定植、いちご狩り、高校生と田植え等を行うことで農業の面白さを伝え、体験・教育・交流の3要素を体系的に組み込むことで食育への関心を高めることができた。
24	松浦青年農業者会	新ジャンルの野菜（かぼちゃ）の栽培および食育活動	会員各自でかぼちゃを栽培、カレーの具材にして試食イベントを開催した。提供したかぼちゃは概ね好評であった。また、市内小学校で米粉を使ったピザや会員酪農家の牛乳を使用したバター・プリンを作った。生徒達はピザ生地やバターの製造工程に興味津々で、酪農農家が作り出す牛乳の大切さを実感していた。
25	舌岐市農協青年部	学童農園と農協青年部	青年部園場にて水稲・さつまいも等を作付し、児童に生育から収穫まで農作業体験をさせた。子供達は初めての作業に苦戦しながらも一生懸命取り組んでいた。収穫祭の折には教育機関と地域住民との交流を深めることができ、農業や食に対する興味や関心が高まったと思う。

②農業青年プロジェクト活動等支援事業（専門部会） 助成実績

【16団体 1,175,762円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	琴海青年農業者クラブ 作業受託班	地域農業の活性化をめざし農作業サポート隊 (作業受託)波及の体制づくり	琴海地域農業維持・農業振興対策のため、ビニール張りの支援活動を行った。また、福岡県農林業総合試験場において、今後のいちご品種動向と菊における品種動向についての講義を受け、研究園場視察を行った。
2	牛丸会	削蹄用器具による削蹄時間の短縮と省力化の検証	専用の削蹄用の器具(大鎌)を用いることにより、一回に切られる蹄の長さが増加し、削蹄時間の短縮が図られ大幅な労力軽減に繋がった。
3	県央青年パーククラブ	生産性向上のための実証試験	ハーブ成分等を含んだ飼料添加物を肥育豚に給与したところ、暑熱時でも順調に出荷することができた。また、子宮の深部に注入する人工受精を実施したところ、産子数が1～2頭増加した。IGR剤の定期散布でハエの発生が抑制できた。
4	牛友会	生産性向上のための実証試験	海藻を含む飼料添加物(アルギスタミナ・アルギブレンド)を給与したところ、発情が強く、かつわかりやすくなり繁殖成績も向上した。また、子牛の下痢が減少し、えづけ飼料の食い込みが良くなり発育も向上した。
5	長崎西海地域養豚研究会	販路拡大に向けた試食会の実施	ブランドが確立した諫美豚を参考に、研究会員の生産豚肉の食味官能評価を精肉店や料飲店に行い、高評価を得る研究会員もいた。しかし、各農家で飼養管理方法が異なるため、生産豚肉に対する評価は異なった。今後は、研究会で飼養管理方法を統一するの、各個人でブランド化を目指すのが検討する余地がある。
6	長崎県茶業青年会	全国茶生産青年茶審査技術協議会の練習および 競技会出場に向けての技術向上	愛知県で開催される全国茶生産青年茶審査技術協議会において、県産茶の知名度向上・若手生産者の意欲向上・県農業界全体の活性化に繋げるため、技術向上を目的とした練習を行った。結果、各会員のレベルアップが図られ、競技会出場に向けて万全の体制を敷くことができた。
7	長崎そのぎ茶手揉み振興会	全国手揉み製茶技術競技会大会出場に向けての 技術向上並びに上位入賞	全国手揉み製茶技術競技会へ2組が参加した。結果は30組中、17位・27位だったが、継続的な練習による技術習得により、将来の上位進出が期待できることである。また、今後は積極的なPR・販売活動による事業収入の獲得についても意欲的に取組み、茶業の発展に寄与することが期待される。
8	ながさきグリ茶研究会	緑茶消費拡大の検討と消費者への茶PR活動	定例会では「最近の茶を巡る情勢」「消費者視点に立った商品開発」について局と生産者で議論を行った。消費者への緑茶嗜好調査を行った結果、茶市場とは違うアンケート結果が出たため、茶市場ではなく消費者の嗜好に注意を払う必要がある。消費者へのPRは、直接消費者と対話をする事で消費拡大につながるため、今後も積極的に継続してPR活動を行う必要があると考えられた。
9	味っ子研究会	西海みかんの将来性を見据えた担い手の資質向上	定期的な生産対策講習会の開催や、かんきつ一斉果実分析を部会より請負い、西海みかん産地の現状をいち早く把握し、栽培管理の先導的役割を担った。また、消費宣伝会に参加し、消費地での消費者の考えを知ることで、これからの農業後継者としての役割を改めて認識する機会となった。
10	牛志会	子牛の下痢対策と発育向上	分娩予定日14日前に牛下痢5種混合不活化ワクチンを接種することで、子牛の下痢予防と疾病時の症状軽減を実現した。

11	県北和牛畜産会	会員の飼養管理技術の向上のための勉強会	講師を招いて飼養管理技術や繁殖管理システム、分娩間隔の短縮に関する勉強会や管外での視察研修を行った。この活動により、各会員が自分の経営について考え、他会員と意見交換したりと、技術向上や会員間の結束力が向上した。
----	---------	---------------------	---

12	へべんこはーと	「よこづなづくり」給与による子牛発育の向上	体重・大肉・胸囲・腹囲は給与開始時では去勢、雌とも給与区は小さかったが、出荷時では給与区が対照区を上回る結果となった。5ヶ月齢以降の子牛にタンパク質補助飼料を添加することにより発育向上効果があり、去勢の発育については試験開始時より発育が低かったため、改善されなかったものと考えられる。
13	園芸部会美術野菜花	かんころ用かんしよの品種比較 ～地元のサツマイモを使った地域特産品づくりへの挑戦～	1個あたりの重量・総収量は紅あずまが一番高く、生産面では有望な品種と考えられたが、企業からは形や色の加工を考えると高系14号がよいとの意見であった。定植後の日数を長くすると収量が上がるといった試験データもあるため、栽培期間を長くする必要もあると考えられる。
14	IFFの会	食農教育を目的とした保育園児との農業体験交流	保育園児に甘藷の定植・収穫作業を体験してもらった結果、農作物の生育過程を知ってもらうとともに、農作業の楽しさや大変さを感じてもらうことで、子供達の農業についての理解を深めることができた。
15	吉岐牛研究会	子牛販売成績向上	出荷子牛の平均日齢体重および平均販売価格は、吉岐地域全体の平均には及ばなかった。一方、吉岐家畜市場に占める割合は、販売頭数は6.8%と、地域において重要な生産者組織となっており、今後の産地拡大を図るにあたり、会員の資質向上が期待される。勉強会は、毎回セリ市後に開催し、セリ市結果の検討や情報・意見交換を行った。
16	長崎かんきつ担い手ネットワーク	気候温暖化に対するうんしゅうみかんの果皮障害軽減対策技術、不知火における寒害および腐敗対策技術の実証	着色等の果皮障害の効果を軽減する栽培技術の実証を行った結果、早生、中生、普通温州で軽減効果が示唆された。また、不知火の寒害軽減のための新たな果実被覆袋の効果の検証では、従来の袋と比べ効果が判然とせず継続調査が必要となったが、貯蔵中の腐敗軽減のための食品添加物の塗布では、腐敗抑制効果が示唆された。

### ③農業青年プロジェクト活動支援事業（九州大会） 助成実績

【3団体 234,000円】

	申請者名	発表内容
1	いさはや4Hクラブ諫早支部	生業
2	大村市青年農業者会	ゆでピープロジェクト2018 ～大村ハンパないって～
3	長崎県三会4Hクラブ	産地の長期的な発展を見据えた婚活プロジェクト

九州・沖縄地区青年農業者会議へ出場

九州・沖縄地区青年農業者会議へ出場  
全国青年農業者会議へ出場

### ④農業青年プロジェクト活動支援事業（地区連） 助成実績

【7団体 1,176,845円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎地区青年農業者連絡協議会	土壌改良プロジェクト	共通した知識向上を目標として土壌に注目した。講師を招いた研修では、土質の違いから保肥力・保水力に差が見られるので、肥料やかん水についても注意しなければならないことがわかった。また、土壌分析・土壌採取の仕方を選び、分析結果から養分の過不足が判明したため、それを補うために今後は緑肥や資材を用いて改良を行うことが必要だとわかった。
2	県央地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと地域農業への貢献・プロジェクト活動強化による資質の向上・学習活動の充実 ほか	新規就農者3名が仲間入りをはたし、激励会を行った。また、関係機関・農業者との情報交換および就農支援情報研修・会員間の交流を行った。
3	島原半島地区青年農業者連絡協議会	発表大会等を通じた資質向上と仲間づくり促進	プロジェクト活動や発表を通して会員相互のレベルアップを図るとともに、青年農業者間の連携を深め、組織活動や地域の活性化につなげるため、新規就農者激励会やスポーツ交流会、農業者・女性農業者との研修交流会等を開催した。
4	県北地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと連携の強化 プロジェクト活動等による資質向上	会員の農業経営内容の視察、新規就農者激励会レクリエーション、プロジェクト意見発表大会・研修会など
5	五島地区青年農業者連絡協議会	会員相互の連携強化のための仲間づくりと消費者および関係機関との交流を図る ほか	リーダー研修会（佐賀市）、「30年後の五島の農業」講演会など
6	吉岐地区青年農業者連絡協議会	ニンニクの生育比較試験	種の冷蔵処理による生育比較および機械化体系に対応したマルチ・元肥一発施肥体系の生育比較を行った。次年度は栽培結果を踏まえ、継続した栽培をすることで、ニンニク栽培の生産体系確立を図る。
7	対馬地区青年農業者連絡協議会	農産物直売会による地域の活性化 青年農業者の経営力向上に向けた技術の研鑽	農産物直売会の試食は好評で、ほぼ全ての商品売り切ることができ、対馬4Hの活動を十分にPRすることができた。また、ながさき農業オープンアカデミーに参加したことで、簿記や法人化等について学び、経営分析・計画について発表することで自身の経営力向上に繋がった。

### ⑤農業青年プロジェクト活動支援事業（県連） 助成実績

【1団体 300,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
--	------	------------------	---------

1	長崎県青年農業者連絡協議会	青年農業者グループ活動を促進し、地域農業の発展と農家の経営、生活の改善を図る	総会・農産物販売イベント・行事打ち合わせ・プロジェクト意見発表等
---	---------------	--	----------------------------------

◎青年農業者活動支援事業

助成実績

【1団体 730,000円】

申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1 長崎県青年農業者連絡協議会	各県会長会議、次年度開催県研修会、リーダー研修会等の各種研修会へ参加し、自己研鑽を図るとともに、他県青年クラブ会員との連携による運営協力を行う	各種各研修会に参加することにより、自己研鑽を図るとともに、他県青年クラブ会員と交流することができた。

⑦担い手活動促進事業

助成実績

【11団体 2,838,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎西彼農業者連絡協議会	将来の担い手育成・確保を積極的に行い、地域農業の振興に努める	農業士会・青年組織合同研修会・各組織総会の開催。研修会では「消費税軽減税率制度」について福岡国税局より講演していただき、個別事例での質疑で制度の理解が深まった。情報交換会では、地域間の研修会による技術交流・情報交換や若手女性の組織化の話題など、地域の活性化に向けた話で大いに盛り上がった。
2 県央地区農業者協議会	将来の担い手の育成・支援活動を推進し、男女共同参画社会の形成を目指す	農業士と新規就農者研修会の開催、九州沖縄農業者研究会参加、県内農高生および農大生視察派遣研修受入および女性農業者の集い ほか
3 島原半島農業者会	農業者の活動促進および連携、協調、情報交換、農業後継者育成を行う	農業大学校生の農家等派遣研修受入れ、新規就農者激励会での助言指導、長崎県農業者連絡協議会と佐賀県農業者会との意見交換会および研修会 ほか
4 県北農業者会	地域で活動する青年への支援と後継者の確保・育成に取組み、地域農業の振興を図る ほか	福岡国税局 国税実査官を招いた「消費税の軽減税率制度等について」研修会の開催および県北地区就農促進研修会・農家等派遣研修 ほか
5 五島地区農業者会	後継者の育成および男女共同参画推進に尽力し、会員相互の連携協調、情報交換の強化を図る	五島農業生産法人研修会、今後の農業を考える研修会、次期活性化計画策定に係る地区別意見交換会 ほか
6 杵岐農業者協議会	グループ員の資質向上	杵岐農業者競技会研修会を行い、後継者の確保・育成および移住者の確保について意見交換を行った。
7 対馬市農業者会	農業者の意見交換会・食事支援等	各種研修会の開催・参加および小学生への食育支援（アスパラガス）、農業者と若手農業者の交流会 ほか
8 JA長崎県女性組織協議会	組織・メンバーの活性化、JA運営への参画・パートナーシップの強化など	食・農・地域を豊かに、組織・メンバーの活性化、JAと連携した取り組みをすすめる ほか
9 長崎県農協青年部協議会	次世代リーダーの育成、青年部盟友の所得向上、広報活動の強化など	リーダー育成に繋がる研修会の開催、JA農業政策に関する知識習得、農業経営・技術の向上 ほか
10 長崎県農業者連絡協議会	就農希望者の受入、経営、技術の指導 青年農業者の資質向上など	佐賀県農業者との意見交換、現地視察、農大生・青年農業者との意見交換、九州農政局幹部との意見交換会 ほか
11 長崎県農業高等学校 農業後継者育成連絡協議会	農業への興味や農業高校への進学意欲を高めるため、中学生を対象に就農意欲喚起体験入学を開催する	学校概要の説明、施設・設備等の見学や実験・実習の体験学習を通して、中学生の農業教育に対する理解と入学意識の向上を図った。全体で962名の中学生が参加、アンケートでは学校の状況が理解でき、進路決定の参考になるという感想が多かった。

◎漁業者等実践活動支援事業（定額）

助成実績

【1団体 2,740,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎県漁業者連絡協議会	漁業者が実施する活動等に対する支援（各地区漁業者会が行う実践活動及び視察研修、学習会等に対する支援）	他地区・他県の漁業者及び異業種との交流や魚食普及等のイベント実施、釣り漁業の試験操業、情報発信等の学習会の開催、所得向上に関する講習会、水産教室の実施（県下59回）、視察研修を実施した。（別添資料）

◎漁業者等実践活動支援事業（グループ活動支援）

助成実績

【1団体 150,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
------	------	---------

1	島原漁協同組合 女性部	漁協女性部の活動活性化のための視察研修等を支援	漁協女性部員が漁協の自営事業に積極的に参画し、部員の所得向上につなげている先進地視察を実施した。
---	-------------	-------------------------	--